

勝野 眞言

Q1・クロッキーの際に、重視している要素や目指していることは何ですか？

対象の面白さなどの関心を、一言で伝える自分のためのレッスン。短い時間の中で、目を凝らししっかりと見ることが大切になっています。

Q2・好みの画面サイズや時間、その理由があれば教えてください。

2分、5分、10分の時間で比較的よく描きます。短い時間ほど即興性が高く、楽しいです。画面の大きさはA4、A3が使い慣れているせいか、捉えやすいです。

Q3・黒色の素描材料では何をよく使いますか？また、どのようなメリットがあると考えていますか？

パステル、コンテ、墨などグラデーションの幅が出せるものを使い、大体の当たりをつけ鉛筆や硬めのコンテで決めて行くことが多いです。細部を気にせず、大胆に対象を理解出来るメリットがあります。

Q4・クロッキーにおいて「黒」をどのように使いたいですか？

カタチを追求する上でダイレクトに取り組めると考えます。対象にある動き、色や質を一度モノトーンに置き換え、対象の存在を探り、また、描き手の息づかいを端的に表わすことができる色として使って行きたいと思います。

Q5・描き出す際、輪郭、稜線、軸などのうち、どの要素に重点を置いて始めることが多いですか？（特に人物の場合）

塑造を仕事にしているせいか、人体の内にある軸を観察します。軸を意識しますと、そこから東西南北に内側から出てくる量塊が実感として知ることができ、描く意欲が沸きます。どうしても輪郭に目が行きがちになりますので、まず、慌てずその軸をみます。

Q6・クロッキーの制作途中で特に注意している点がありますか？

対象の動き、雰囲気、そして軸。

Q7・クロッキーの仕上がりを確信するのはどのような時ですか？

説明的なものではなく、自分の感じたもの、雰囲気が拵めた時。

Q8・クロッキーとタブロー（彫刻の場合、立体作品）で同じ対象を捉える場合、感覚の違いなどはありますか？

Q5に答えたように、私はカタチを内部から生まれてくるものとして捉えようとしています。手前と奥、遠いと近い、高いと低いなど、位置の違いとしてカタチを理解してつくります。クロッキーをするときは、紙を大理石の表面と思って、そこからカタチを掘り込んで行く気持ちで描きます。

Q9・作品制作時にクロッキーをどのように役立てていますか？

立体制作のモチベーションを高めるのに役立ちます。自分の伝えたいところ、あまり言わなくて良いところを確認したり出来ます。

Q10・あなたにとって、クロッキーはどのような意味を持っていますか？

自分の「ものの見方」を変えてくれる取り組みとも言えます。短い時間のなかでも、自分の可能性を広げてくれる、大切な世界があると思います。